

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益社団法人観世九阜会
公演団体名	公益社団法人観世九阜会

内容
<p>【能楽についてレクチャー】 能楽についてレクチャーします。</p> <ul style="list-style-type: none">・テキスト … 能楽の理解を深めるため、事前ワークショップの内容に合わせたテキストを使用いたします。配布テキストに沿って能楽の歴史についての簡単な解説。・あらすじ、みどころ … 能『土蜘蛛』について、小・中学生にも理解しやすいように紙芝居形式で解説します。 <p>【体験】 レクチャーの後、実際に体験していただきます。</p> <ul style="list-style-type: none">・謡(うたい)の体験 … 謡曲『土蜘蛛』の一節を全員で謡います。・すり足体験 … 生徒全員で能の舞の基本となる身体の構えと足の運び(すり足)を体験します。・クラフト作業 … 生徒全員で厚紙の太刀を作成し、先生には土蜘蛛の糸を投げる体験をしていただきます。生徒は作った太刀を使って、先生が投げた蜘蛛の糸を切る体験をします。・能面をつける … 代表の生徒には、能面を掛けて歩く体験をします。極度に制約された視野で如何にして能役者が舞台上で舞っているかを感じていただきます。 <p>【成果】</p> <p>これまでの実施校では、ワークショップでの体験により、「謡」(セリフ)を生徒が口ずさむなど、身近なものとなり、理解が深まっております。また、謡の体験による正しい発声は、今後大いに役立つものと期待できます。</p>

タイムスケジュール (標準)
13:30～14:15 「能楽について」レクチャー、能「土蜘蛛」あらすじ映像鑑賞、謡体験
14:15～14:25 休憩
14:25～15:10 「すり足」「能面を掛けて歩く」「能土蜘蛛の所作」体験、質疑応答

派遣者数
3名

学校における事前指導
特にありません

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益社団法人観世九阜会
公演団体名	公益社団法人観世九阜会

演目
① 仕舞「土蜘蛛」(仕舞形式・能「土蜘蛛」の前半部分を上演) 上演時間 (5分)
② 能「土蜘蛛」(半能形式・全2幕のうち後半の第2幕を上演) 原作/作曲/脚本等: 作者未詳(典拠「平家物語」剣巻) 上演時間 (20分)
③ 狂言「柿山伏」 原作/作曲/脚本等: 作者未詳 上演時間 (15分)
④ ワークショップほか 解説 (10分)・楽器体験 (20分)・狂言所作体験 (20分)
⑤ 質問応答 (10分)

派遣者数
22名

タイムスケジュール (標準)
13:30～14:15 みどころ解説、狂言「柿山伏」鑑賞、狂言体験
14:15～14:25 休憩
14:25～15:10 楽器体験、能「土蜘蛛」鑑賞、質疑応答

実施校への協力依頼人員
可能であれば荷物の搬入時に2～3名程度

演目解説

① 能「土蜘蛛」

《前半部分》

病に臥せっている源頼光(みなもとのらいこう)のもとに怪しげな僧が現れる。不審な者の訪れに警戒する頼光、すると怪しげな僧は巨大な 蜘蛛となって頼光めがけ蜘蛛の糸を投げかける。咄嗟に枕元に置いていた源氏重代の太刀「膝丸」を抜き蜘蛛を斬りつけると、傷を負った 蜘蛛は姿を消す。(本公演では、前半部分を仕舞という形式で上演します)

《後半部分》

頼光に仕えている独武者(ひとりむしゃ)は、供の武士を伴い土蜘蛛の棲む塚に赴く。現れた妖怪土蜘蛛との戦い。次々に繰り出される千 筋の蜘蛛の糸...しかし、ついには土蜘蛛も独武者たちによって退治される。(本公演では独武者と供の武士たちが土蜘蛛を退治しにゆく、後半部分を能の形式で上演します)

② 狂言「柿山伏」

畑の柿を山伏に盗み食いされた畑主が、柿の木の梢に隠れた山伏に「あれはカラスだ」「いやサルだ」といって、散々に鳴きまねをさせる。ついには「鳶だ」といわれ、山伏は木から飛んでみるが転落。足腰を痛めた山伏は畑主に治療を求めるが…。神通力をも持つはずの山伏 が滑稽に描かれる。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

【能と狂言の鑑賞】

・仕舞「土蜘蛛」(前半)、能「土蜘蛛」(後半)と狂言「柿山伏」を鑑賞します。

【楽器体験】

・音楽の教科書に取り上げられている能楽の楽器を「音楽」の視点から、専門職の囃子方が説明、実演します。・その後、代表の生徒には実際の楽器で、ほかの生徒にはそれぞれの楽器に合わせ、手拍子などで能の音楽を合奏する体験をしていただきます。

【狂言体験】

・おおらかな笑いの芸術である狂言の所作を、鑑賞した「柿山伏」で登場する動物の物まねや、狂言独特の笑いの所作等を全員に体験して いただきます。

児童生徒とのふれあい

学校との協議により、給食をともにするなど、また、休憩時間には積極的に出演者が子供たちと接する機会を持ちます。

学校との協議により、場合によっては撒収の簡単な作業を演者と共に手伝っていただき、演者と触れ合う機会を設けます。